

『論理トレーニング101題』

大学や高専の最終学年に所属するみなさんにとっては卒論を書く季節がやってきました。卒論を書くためにはある程度の研究成果が必要なのはもちろんですが、研究成果だけでは良い卒論は書けません。卒論を書くためには論理的な文章を書く技術、学術論文に適した日本語の文章を書く技術が必要になります。日本語に厳しい教員に指導されているみなさんの中には、自分では「これでいける」と思って書いた文章が真っ赤に添削されて返却されたという経験があるのではないのでしょうか？（あるいはこれから経験するのではないのでしょうか？）今回紹介する「論理トレーニング101題」は論文執筆に必要な、日本語における論理的な文章を書く、考える力を身につけるのにおすすめの本です。「論理トレーニング」と聞くと、論理パズルがたくさん書かれた本を想像するかもしれませんが（それはそれで面白そうです）、この本は日本語の文章表現における論理に関する問題ばかり収録されています。それぞれの問題において、解説も非常に分かりやすく丁寧に書かれており、問題の答えを考え、その後解説を読んで理解しつつ読み進めることで論文執筆に必要な論理力が身につきます。また、この本を読み進めていくと、論理力だけでなく日本語の品詞についての知識も自然と身につきます。

格好付けてこの本は良いと紹介していますが、実は私自身はこの本を読破している訳ではありません。もうかなり前に購入した本なので、どこまで読んだのかについては、最後まで読んでいないこと以上のことは記憶の彼方です。ですが、この本の冒頭で著者が述べられているように、「1問やるだけでも、1問やった分だけの力がつく」ことは確かだと保証できます。この本は200ページ弱ですが、全ての問題を解きつつ読み進めるのはなかなか時間がかかると思います。卒論に追われている方、これから卒論を書くことになる方はまずは一度すらすらと読み解ける範囲で読んで、力をつけてはいかがでしょうか？

具体的な中身についても少し紹介しておきます。この本でははじめに、接続表現に関するトレーニングとして「しかし」と「ただし」の二つの接続詞を取り上げています。どちらも逆接の接続詞なので、文章中で両者を置き換えても文法としては正しい日本語になる場合がほとんどです。「しかし」、両者を置換すると日本語のニュアンスが変わります。ここではあえてニュアンスという曖昧な表現をしましたが、本の中では明確に両者の違いを説明してくれています。私が先ほどの文章で選んだ接続詞「しかし」は果たして適切なのでしょうか？ みなさんも「論理トレーニング101題」を読んでどちらを使うのが良いか考えてみてください。

（東京都市大学 藤原賢二）